

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092300054		
法人名	社会福祉法人 星野村福祉会		
事業所名	星寿園グループホーム ほしのさと		
所在地	福岡県八女市星野村10779-7		
自己評価作成日	平成31年1月23日	評価結果確定日	平成31年2月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成31年2月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

星寿園グループホーム「ほしのさと」も9年目に入りました。山に囲まれ自然豊かな中にあり、静かな環境で過ごすことができます。施設内には大きな窓やベランダを作り、明るく広い共有スペースでは、毎日ご利用者と職員が、各ユニットの理念に沿いながら、楽しく一緒に過ごし笑顔が見られています。元気に過ごして頂く為に、健康面では主治医と密に連絡を取りながら、健康管理を行っており、看取り介護も実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

各ユニット毎の理念や月間目標を掲示し、「何かさせてください」との思いや、トイレに誘導されることを悲しいと表現される入居者の心情を察したケアに、全職員で取り組んでいる。自宅畑の草取りに同行したり、先月は雪の日にあえて外出し、雪を触ったり投げたりして冬を満喫した表情豊かな笑顔満載の入居者の写真が共用空間に掲示されている。また、入居者に関わる時間に考慮して朝夕の申し送りを簡潔にしたり、尿取りパットの当て方などの工夫でコスト削減が実現している。地域の要望で開設された法人のグループホームとして16名の地元の方が入居され、民生委員や自治区代表などの参加で開催されている運営推進会議では、忌憚のない意見交換が行われている。今後も法人理念の地域に求められる質の高い介護で老人福祉への寄与が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **星グループ/星寿園GHIほしのさと**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の作り直しができず、以前と同じ理念であるが、理念を念頭におき実践につながる様に努めている。	各ユニット毎の理念や月間目標を事務所前に掲示している。入居者のできることやできなくなったことを理解した支援で、法人理念のこころの通った入居者本位のケアに努めている。	地域の要望で設立された社会福祉法人のグループホームとして自負心を持つために、定例会などで法人理念の唱和を期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の加齢と共に、身体のレベルの低下に加え、職員数が揃わない等で、地域への参加が難しくなっているが、地域からの慰問を受けている。	16人の入居者が地元の方で、馴染みの地域祭りを見学したり、敬老会では恒例の文化連盟の踊りが披露されている。法人敷地内にあった保育園が移転するが、今後も園児の来訪をお願いする予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の介護度も上がり、地域に出掛ける事が少なくなっているが、祭り等に参加して、地域の方との交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者の方に、利用者の状況や活動報告等行いサービスの実際を知って頂く。又、会議の中で頂く意見や要望に関しては、ケア会議や申し送り等で伝えている。	全家族に会議開催や会議内容を送付している。前はなかったが日頃は1~2名の家族や、民生委員や自治区代表などの参加で開催されている。投薬のヒヤリハットの対策を問われ、介護のプロとしてマニュアルに沿った投薬を申し合わせて実践している。	運営推進会議の設置目的に鑑み、会議録を家族などの目につきやすい玄関などで公表したり、全職員が会議内容を共有できる取り組みを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員の運営会議に出席頂く事で、GHの実情や利用者状況を知って頂いている。	市主催の地域密着型サービス連携会議や研修に参加している。有志による地域福祉に関する勉強会を検討している。また、年2回発行の法人広報誌の全戸配布が区長会を通じて継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んで	玄関はセンサーを使用し、出入りのチェックを心掛け、利用者の外出は見守りや付添いを行っている。ベッドは、柵で囲う事のない様に、クッション等で転落予防に努めている。	身体拘束適正化方針を整備し、ケア会議で周知している。大声や「ちょっと待って」などのスピーチロックは、職員同士でその場で注意合っている。夜間のセンサーマットは家族の了解を得て使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内勉強会に参加し、ケア会議等で虐待の理解や具体的な事例について再協議している。又、事故報告等で確認を行い注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用されている利用者はいない。	現在まで日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用はない。利用料の支払いが滞り、市担当者に対応を相談したところ、別の家族が通帳を管理するようになった経緯もあり、運営推進会議で後見制度の説明を検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時ご家族と読み合わせを行い、説明をしながら契約を交わし、同意の捺印を頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、地域の方との意見交換を行っている。	個々の入居者の状態の変化は随時連絡しているが、日頃の暮らしぶりや外出時の笑顔満載のホーム便りや一筆便りを継続している。敬老会や運動会などを家族に案内し、意見の表出を促している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	園長が年に1, 2度、個々に意見や意向を聞く機会を設け、職員はそこで意見や考えを話している。	全体会議やユニット会議では率直な意見交換が行われ、入居者に関わる時間に考慮して朝夕の申し送りを簡潔にしている。園長との面談は、次年度の就労契約や人事考課の場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価を行っている。又、園長は個々に聞き取りを行う等、職員の意見を聞く機会を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用に関して、差別的な事はない。資格取得についても、勤務表等考慮してもらい、資格取得に努めている。	20代～60代の年齢に幅のある男女の職員が勤務している。研修参加を促したり、介護福祉士資格取得を推奨し、昨年9月に雇用された介護経験のある職員も主任や管理者の指導を受けながら夜勤に入る予定で、人材育成に取り組んでいる。外出支援、壁紙や誕生日カードづくりなど役割を分担しながら生き生きと働きやすい職場づくりをしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	園内勉強会や、外部の勉強会で学ぶ機会を設けている為、参加するように声掛けを行っている。	虐待に関する内外の研修に参加し、人権教育に取り組んでいる。日頃の声かけなどの接遇は職員間で注意し合う環境を作っている。	行政主催の人権研修の参加で、さらなる教育・啓発をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内勉強会や、GH部会の研修への参加を呼び掛けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者が他のGHの運営推進会議に出席し、情報交換を行う機会があった。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が本人と面談を行い、困っている事や要望を聞き取り、プランに反映させ、本人との関係作りを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みにみえた時やその後入所に至るまでの間で、困っている事や要望等を聞き取り、プランに反映させている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞く。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干しやたたみ、調理の下ごしらえ(野菜の皮むき等)等を、職員と一緒にやっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の様子を話したり、毎月一筆箋で活動報告をしたり必要に応じ、電話連絡を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	T氏昨年途中までは、行き付けだった美容室に行かれていたが、認知症状悪化に伴い、支援終了。K氏時々自宅まで行かれ、周辺の草取りをされたり、野菜の収穫に行かれる為同行し支援行う。	馴染みの村祭りの見学や初詣に出かけた。月1回親族と自宅に宿泊する入居者もある。入居予定の方の家族の希望で、馴染みの美容院へ送迎を支援予定である。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行動・状態を見、クッションを当ててあげたり、椅子を準備してあげたりされている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退居となられたが、様子を見に行き家族とも話しをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の言動や行動の変化や意向の把握に努めている。 ご家族に協力を頂き以前住んでいた地域へ出かける支援を行っている。	入居者のできることやできなくなったこと、思いを詳細にアセスメントし、意向の把握に努めている。「何かさせてください」との意向を受け、お願いした食器やお膳拭きを丹念にされる入居者や、お人形を抱いて落ち着かれる入居者もある。	入居者の言動を評価するのではなく、どうしてかと分析し、共感する過程を通じた思いや意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集を行い、入居後も一人に不安のない暮らし方に必要な情報を収集し、サービス利用に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、利用者様の様子観察を行い、心身状態の変化・体調の変化に気付き、記録を残し申し送り時の、情報の共有、把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ケア会議を開き各担当者より利用者様の様子や状況を伺いながら支援計画の作成に繋げている。	入居者の意向を重視した介護計画を作成し、詳細なモニタリング結果に沿って、見直しをしている。自宅畑の草が気になったり、トイレに誘導されることを悲しいと表現される個々の入居者の心情を察したケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の健康状態、排泄・食事その日の様子観察などで記録できている。利用者様の気づきや問題点など申し送りやケア会議などで話し合い、プラン変更を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態ご家族様の要望を聞き、出来ない時もあるが、個々に応じたサービスを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	村内の保育園や文化連盟等、交流の機会を持ち歌や踊りなどして頂いている。村祭りを見に行ったり、村の行事には、積極的に参加するようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診し健康管理を行っているが、専門医の受診が必要な時は、家族の意向を伺い、主治医に紹介状を書いて頂き、専門医に受診して頂く。	法人理事長が全入居者の主治医で、入院時は主治医が家族に説明されたり、専門医療機関受診などの指示を得ている。各ユニットに看護職員も勤務しているが、週1回勤務する看護職員もあり、適切な医療受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常時には、看護職員へ報告、指示を受けるが看護職員で判断できない時は、かかりつけ医に報告、受診など行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、管理者又は職員が、情報提供を行い、入院中は、定期的に病院に伺ったり医療連携室担当と取り合っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に、病状悪化時・終末期について意向を伺っている。施設内で、出来る介護について説明し医療が必要な場合は、かかりつけ医に相談し、面談をして頂いている。又は、他施設の紹介を行っている。	この1年は看取りはなく、医療機関で2名の方が逝去されている。入居時に意向確認書を取り交わし、今後も本人や家族の意向確認しながら看取りを支援していく予定である。看取りを特別な事と考えず、日頃のケアをより細やかに観察したケアを続ける事だと管理者は職員に話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていないが、応急救護の研修に参加しAEDの使い方を学んだりしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回(昼間・夜間時)を想定で、消防署の指導で火災避難訓練を行っている。	夜間を想定した避難訓練では、2名の職員で全入居者を誘導している。消防署から火元に近い方を優先したり、又通気口を開けてからの避難をと指導を受けている。大水害による停電等を経験した経緯もあり、ホーム前の市営住宅の居住者に、以前同様に協力依頼を検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の配慮に努めているが、言葉掛けでは、損ねる言葉掛けをしてしまう時があり、気を付けなければならない。	入居者の心身の状態に応じた穏やかな声かけや対応を実践している。食事に時間がかかることを繰り返し詫びる入居者は、管理者の「ゆっくり食べて下さい」との声かけに安心した様子であった。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を尊重する様に心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行きたいところややりたい事等、希望に添って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	数か月前までは、毎日お化粧をされていたが、認知症の進行が進み滞ってしまっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様と食器やお盆を拭いたり、一緒に食事を作ったり、食べたりしている。ご利用者様のお誕生日には、その方の好みの物を尋ね、それを添えたりしている。	恵方巻やおせち料理など季節の料理やたこ焼きやホットケーキ作りを楽しんだり、誕生日は赤飯などの希望の献立で祝っている。毎日の食事は、ほとんどの入居者が個々のペースで完食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立担当で1~2か月に1度会議を行い、栄養面、コスト面等について話し合っている。又、1人1人の適量や嗜好を把握し提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後はみがきの声掛けを行いご本人の能力に応じ見守り~部分介助を行っている。又、9日に1度ポリデント消毒を行い、個々に応じたブラシや介護用品を揃え使用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、トイレの声掛け誘導を行い、失禁を減らすように努め、出来る限り紙パンツの使用を遅らせるようにしている。	日中は丁寧な声かけでトイレでの排泄を支援しているが、夜間のみポータブルトイレを使用している入居者もあり、センサーマットで早めの排泄を支援している。夜間の排尿コールを重視した排泄支援や尿取りパットの当て方などの工夫でコストが半減したり、失禁による介護の手間も軽減している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排便のリズムを把握し、牛乳やヨーグルトを提供したり、歩行訓練を促している。又、下剤使用前に腹部マッサージを行い排便を促している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回入浴曜日を決め、午後に入浴して頂いているが、体調や、面会、外出等、状況に合わせて、調整を行っている。	週2回入浴を支援している。体調不調などと言って入浴を億劫がるが、入ってしまうと、「気持ち良い」となかなか上がらない入居者もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体状況に合わせてベッドを調整、柵を付け安心して休んで頂いている。又、利用者の体調や、希望に応じ休んで頂く様にしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の現状や定期や臨時受診の結果を、ノートに記入、申し送りで報告し、職員に周知している。薬の内容はファイルし閲覧できる様にしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	”何かさせて下さい”と言われる利用者には、食器拭きや洗濯物干し、たたみ等の仕事やおやつ作りを一緒にする等行っている。又、天気の良い日には屋外で昼食を摂ったり、ドライブ等の外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば、一緒に外に出て、散歩や畑作業を行っている。	四季折々の花や紅葉を愛でる散歩を楽しんでいるが、先月の雪の日にあえて近くの公園に出かけている。雪を触ったり、投げたりして冬を満喫している表情豊かな笑顔満載の入居者の写真が飾られている。外出の意義を再確認できる機会となっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時、基本お金は持ちこまない様にお願しているが、お金を預けてそこから必要な物を買っている利用者はいる。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、電話をかけてあげている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、明るくて広いホールがあり、一緒にテレビを見たり、レクをしたり出来る。エアコンや加湿器等も設置し、健康面に留意している。毎月担当を決め、壁面装飾を行い、季節感をだしている	各ユニットとも、季節の壁紙を掲示し、洗面コーナーなどに季節の花を飾っている。テレビが見やすいようにソファを共用空間中央に設置しているユニットもあり、入居者の心身の状況に応じた設えをしている。テレビの音量に配慮し、ゆったりと静かな時間を感じる心地よい空間になっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーでくつろいだり、テーブル椅子で利用者同士談笑されたりされている。テラスもあり、外気浴もされてある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの物持って来ていただいたり、誕生カードを貼り。心地よく過ごして頂く。	各居室入口には花の名前と入居者名が掲示され、各居室とも清掃が行き届き、湿温計や加湿器が設置されている。家族写真や誕生会カードが壁に掲示されたり、お位牌とお花が飾られている居室もある。ポータブルトイレは布でカバーされ心地良い。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手摺りがあり、ベッドサイドにも支援バーを設置し自立できる支援をしている。		